

教科名  
総合的な学習の時間

大竹市立大竹中学校 第3学年

指導者 隅田 千尋

単元名 『 伝われ！竹中の伝統！ 』 ～大竹中の伝統を伝えよう～

本単元で育成する資質・能力 課題発見・解決能力 主体性

- 1 日 時 令和4年9月15日（木） 5校時
- 2 学 級 第3学年2組 （ 男子18名, 女子16名 計34名 ）
- 3 場 所 大竹市立大竹中学校 3年2組教室

#### 4 単元について

##### <単元観>

本学年の総合的な学習の時間のテーマは『「発信する」～学びを通じた思いや願いを表現する生き方～』とし、第3学年の探究課題の1つを「大竹中学校の伝統を後輩に伝えるためにはどうしたらいいだろうか」と設定した。大竹中学校最後の年に、自分たちの活動を振り返らせ、大竹中の伝統について改めて考えさせることで、大竹中学校のよさを知り、自分たちの思いを後輩に表現することをゴールにした単元である。

まず、大竹中学校の卒業生に大竹中学校の伝統についての思いや願いを聞き、新型コロナウイルス感染症の影響で、すでに引き継がれていない伝統があることに気付かせる。それも含めて自分たちが後輩に伝えたい大竹中学校の伝統について考えさせ、その上で各クラスで伝えたい伝統のテーマを決定し、その伝統が築き上げられてきた過程等を情報収集し、何をどのように伝えるべきなのか表現方法や内容を考え、実際に文化祭で表現する。また、大竹中学校を支えてくださった地域にも目を向けさせることで、小中9年間の本質的な問いである「大竹のまちに愛着をもち、大竹のまちを支える人になるためにはどうしたらよいか」についても考えさせたい。この学習を通して、何度も問い直され答えが更新され続ける課題に対して主体的に探究する態度、自分の考えを表現する力を育成していきたい。

##### <生徒観>

本学年の生徒は、1年次に新型コロナウイルス感染症防止のため、体育祭、文化祭等とほとんどの学校行事を体験していない。2年次からは規模を縮小してではあるが、徐々に学校行事も経験することができるようになった。しかし、7月に実施した学校評価アンケートでは、「行事や学級活動に一生懸命参加して充実感を感じている」という項目に対して、本学年の肯定的回答は80.9%であった。体験活動を行えなかったことで、先輩たちから伝統を引き継ぐ場が減り、大竹中学校の伝統やそれに対する思いが薄まりつつあるように感じる。

また、昨年度の総合的な学習の時間からICTを活用したプレゼンテーションを多く仕組み、パワーポイントを活用することに抵抗がなく、プレゼン作成の技術は高い。学校評価アンケートでも「総合的な学習の時間の中で、タブレットを効果的に活用することができた」の項目で肯定的回答は91.5%であった。しかし、資料や原稿に頼り切ってしまう、自分のことばで表現する力は身につけていない生徒が多い。

さらに、学校評価アンケートの「総合的な学習の時間を通して、自分が誰かの役に立っていると感じる事ができた」では肯定的回答が62.7%と低い。

### <指導観>

大竹中学校の伝統についてもっと知りたいという思いから、卒業生やゲストティーチャーの大竹中学校の伝統に対する思いを聞き、「大竹中学校の伝統を受け継ごう」という身近で、必然性のあるテーマにすることで生徒が主体的に探究できるよう、課題を仕組む。今回、大竹中学校の伝統について再度考えるきっかけを与えることで、このままでは廃れてしまう伝統を自分たちの力で受け継ぎ、後輩につなぎたいという思いをもち、どうすれば後輩に伝わるか等、生徒自らが発見する課題に対して、自分たちの考えを整理するために思考ツールを使い、課題解決に導きたい。

また、最終ゴールで実際に後輩に表現させることを仕組み、後輩や保護者、地域の方の感想を知ること、大竹中学校に関わる全ての人の役に立っていると感じることができるようにし、自己有用感を高めたい。

さらに、発表の場を文化祭という大きな学校行事に設定することで、「行事を成功させたい」「よりよく表現したい」という思いを持たせ、練習させたり、相互評価を取り入れたりすることで、自分のことばで表現する力をつけたい。

## 5 単元の目標

○大竹中学校の伝統とこれまでの先輩たちの伝統への思いを知り、後輩に向けて自分たちができることを主体的に考え、表現することができる。

○大竹中学校を支えてくださった地域について生徒に考えさせることで、大竹市で学んだことに誇りをもつことができる。

## 6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①大竹中学校にある伝統とそれに対する思いや願いを理解している。 ②伝統を後輩に伝えるために必要な情報を収集し、適切に表現している。 ③「大竹中学校の伝統を伝えたい」という思いの高まりは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	①先輩から大竹中学校の伝統に対する思いや願いを聞くことで、自分たちも後輩に伝えたいという課題に対して、解決への見通しをもって計画している。【課題の設定】 ②後輩に表現するために、多様な方法の中から効果的な手段を選択し、主体的、協働的に必要な情報を収集している。【情報の収集】 ③後輩が「受け継ぎたい」と思えるように必要な情報を取捨選択し、解決に向けて考えている。【整理・分析】 ④伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。【まとめ・表現】	①活動の振り返りを通して、自分の考えを試行錯誤し、自分の意志で探究的な活動に取り組もうとしている。 ②自他の考えを尊重しながら、協働して、課題解決に取り組んでいる。 ③大竹中学校の問題に自分のこととして取り組んでいる。

## 8 単元のルーブリック

知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
①	A	大竹中学校の伝統とそれに対する思いや願いを様々な視点から理解している。	A	先輩から大竹中学校の伝統に対する思いや願いを聞くことで、自分たちも後輩に伝えたいという課題に対して、解決への見通しをもって計画をし、解決の方法や手順を考えている。	A	活動の振り返りを通して、自分の考えを試行錯誤し、他者の考えを尊重しながら、自分の意志で探究的な活動に取り組もうとしている。
	B	大竹中学校にある伝統と伝統に対する思いや願いを理解している。	B	先輩から大竹中学校の伝統に対する思いや願いを聞くことで、自分たちも後輩に伝えたいという課題に対して、解決への見通しをもって計画している。	B	活動の振り返りを通して、自分の考えを試行錯誤し、自分の意志で探究的な活動に取り組もうとしている。
②	A	伝統を後輩に伝えるために必要な情報を収集し、適切に表現している。目的や場面に応じて、対象に応じた適切な方法で実施し、正しい情報を入手している。	A	後輩に表現するために、多様な方法の中から効果的な手段を選択し、テーマに合わせて主体的、協働的に情報を蓄積させている。	A	自他の考えを尊重し、お互いの考えを批評しながら、協働して、課題解決に取り組んでいる。
	B	伝統を後輩に伝えるために必要な情報を収集している。	B	後輩に表現するために、多様な方法の中から効果的な手段を選択し、主体的、協働的に必要な情報を収集している。	B	自他の考えを尊重しながら、協働して、課題解決に取り組んでいる。
③	A	「大竹中学校の伝統を伝えたい」という意欲の高まりは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	A	後輩が「受け継ぎたい」と思えるように、必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付たりしながら、根拠と理由をもって、解決に向けて考えている。	A	大竹中学校の伝統継承に自分のこととして取り組み、自分ができていることを考えている。
	B	「大竹中学校の伝統を伝えたい」という思いの高まりは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	B	後輩が「受け継ぎたい」と思えるように必要な情報を取捨選択し、解決に向けて考えている。	B	大竹中学校の伝統継承に自分のこととして取り組んでいる。
		④				
		A	伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現していて、相手の意見を受け入れている。			
		B	伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。			

9 単元計画

次	学習内容	評価			
		知・技	思・判・表	主體的	
	<p><b>1 &lt;課題の設定①&gt;</b>                      ○自分たちが後輩に伝えたい伝統は何かを考える。                      考えられるテーマ                      鯉昇ソーラン、ハートプロ…                      ○大竹中学校の伝統について先輩に聞いてみたいという思いをもつ。                      (1時間)</p>	①			○大竹中学校にある伝統と伝統に対する思いや願いを理解している。
	<p><b>実践報告</b>                      導入として、生徒に今までの中学校生活を振り返らせた。新型コロナウイルスの影響で行事が縮小したり、中止になったりして、生徒が思い出に残っているものに偏りがあること、少ないことに気付かせた。「思い出に残っている行事が少ないのは仕方ない。」「ちゃんとやった行事は“鯉昇・ソーラン”しかない。」とマイナスな発言をする生徒が多かった。                      また、3年生として何を後輩に残していけばよいか考えた際に、大竹中学校の伝統が、コロナ禍で本来のものではなくなりつつあることに気付き、先輩に聞いてみたいと思うように導いた。行事に対してマイナスイメージをもっている様子であったが、授業後、「私の姉も話してくれるから、呼びましょうか。」と話してくれる生徒もいた。先輩から話を聞くことは楽しみにしている様子だった。</p>				
1	<p><b>2 &lt;情報の収集①&gt;</b>                      ○大竹中学校の卒業生から中学生の時に経験した大竹中学校の伝統について話を聞き、コロナ禍で伝統が消えているという現状を知る。                      ○卒業生の話の中からクラスで伝えたいと思う伝統を決める。                      ○決定した伝統のテーマを考え、情報が足りないことに気付き、伝統に詳しい人を調べ、質問事項をまとめる。                      (1時間) → (2時間)</p>		①		○先輩から大竹中学校の伝統に対する思いや願いを聞くことで、自分たちも後輩に伝えなければならないという課題に対して、解決への見通しをもって計画している。
	<p><b>実践報告</b>                      卒業生に来てもらい、当時の大竹中学校について語ってもらった。話を聞くことでコロナ禍で減っている行事や伝統、それらに対する思いに気付くことができた。生徒は昔の大竹中学校に興味をもち、話を聞いていて、現在とは違うことに危機感というよりは寂しさや羨ましさを感じる生徒もいたが、伝統に対する思いを考えるまでには至らなかった。                      講演後、「自分たちで伝えたい大竹中学校の伝統ベスト3」を決め、集計した。結果、「竹中ソーラン」となり、「竹中ソーラン」について知っている情報を収集したが、情報の少ないことに気付いた。しかし、「竹中ソーラン」は校長先生が始めたことを知っている生徒たちは、「校長先生に聞いてみよう。」と発言していた。</p>				
	<p><b>3 &lt;情報の収集②&gt; 本時</b>                      ○クラスで担当する伝統のテーマの関係者であるゲストティーチャーとのやりとりの中で伝統のテーマについて情報収集する。                      ○マインドマップを使って情報を整理する。                      ○どのように表現していくかを考える。(1時間)</p>	②	③		○伝統を後輩に伝えるために必要な情報を収集している。 ○後輩が「受け継ぎたい」と思えるように大切な情報を取捨選択し、解決に向けて考えている。



先輩の話を聞く様子

### 実践報告

ゲストティーチャーとして、生徒が校長先生を招待し、当時の話をしてもらった。体育祭前の導入では聞けなかった当時の様子を聞くことができ、貴重な体験となった。

校長先生話や自らの体験をもとに、タブレットを使用し、マインドマップに情報を付け足した。

どのように表現したらよいかという質問に答えは出ず、「校長先生に話してもらえばいい。」と他人事に考えている様子も見られた。

ゲストティーチャーの話を聞く様子



タブレットで情報収集している様子

#### 4 <整理・分析①>

○収集した情報をもとに、どのように伝えていくか表現方法を決定する。(4時間)

② ①

○後輩に表現するために、多様な方法の中から効果的な手段を選択し、主体的、協働的に必要な情報を収集している。

○活動の振り返りを通して、自分の考えを試行錯誤し、自分の意志で探究的な活動に取り組もうとしている。

### 実践報告

収集した情報を振り返り、伝えたい情報を全体で共有し、どのように伝えたいかを話し合った。なかなか意見がでなかったが、授業終盤にある生徒が「“プロジェクトX” にしたらいい。」というアイデアを思いつき、周りの生徒も共感した様子だった。

#### 5 <情報の収集②>

○完成したシナリオをもとに、自分たちの役割を考える。(1時間) → (3時間)

考えられる役割

監督、演技、映像等

②

○自他の考えを尊重しながら、協働して、課題解決に取り組んでいる。





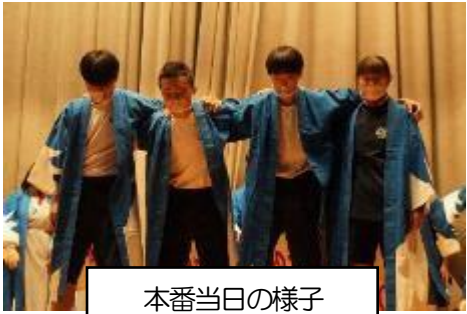
### 実践報告

表現方法は決まったものの、自分たちで表現するという実感がない生徒が多かった。どんな役割が必要か、“プロジェクトX”がどのようなものだったか、過去の映像を見ながら考えていった。この時点では、意欲的な生徒は数人で、主役級の演者に立候補する生徒はほとんどおらず、照明やポスター制作等裏方をしようとする生徒が多かった。そのため、場面を4つに区切り、1人1場面担当するように声をかけ、その中でリーダー、役割を決めさせた。その後、リーダーを中心に台本制作に入り、タブレットで場面ごとの台本を回収し、合体させることで1つの台本が完成することになった。このあたりから、リーダーを中心に主体性が見られるようになってきた。

場面ごとの役割を決めている様子



台本作成前 あらすじをまとめている様子

<p>6 &lt;整理・分析②&gt; ○役割ごとに準備していく。(11時間)</p>		③	<p>○大竹中学校の伝統を伝えるという課題に自分のこととして取り組んでいる。</p>
<p><b>実践報告</b></p> <p>台本が完成してからは意欲が高まり、それぞれが衣装や小道具を用意し始めた。実際に台本を手に練習が始まると、何度も台本に修正が入り、「本当にこれで伝わるかね?」「このまま後輩に伝わったら誤解されるよ。」等、生徒だけで話し合いが進むようになった。役に対しても積極的に、本来裏方役だった生徒も演者に立候補し、当初なかった役も増えていった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="327 510 759 573" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">大漁旗を作っている様子</div> <div data-bbox="799 510 1355 573" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">最後の踊るシーンの並びを考えている様子</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">完成した台本</div>   </div>			
<p>7 &lt;実行&gt; 文化祭 ○大竹中学校の後輩に伝えたい伝統を表現する。</p>		④	<p>○伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。</p>
<p><b>実践報告</b></p> <p>本番当日、新型コロナウイルスの影響で9人が欠席することになってしまったが、代役を意欲的に引き受ける生徒が多く、無事に演じ切ることができた。この本番に向けて、「このプロジェクトには後輩に伝統を伝える使命があるから。」と意気込んでいる様子が見られた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="384 1137 676 1200" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本番当日の様子</div> <div data-bbox="927 1429 1219 1491" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本番当日の様子</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>			
<p>8 &lt;まとめ・表現&gt; ○実行し終えたことについて振り返りを行い、後輩からのメッセージを交流する。 ○大竹中学校を支えてくださっている地域の方の感想を聞き、地域の方の大竹中学校への思いを知る。 ○大竹中学校の伝統を伝えるためにさらにできることを考え、実行する。(1時間)</p>		③	<p>○「大竹中学校の伝統を伝えたい」という思いの高まりは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p>
<p><b>実践報告</b></p> <p>振り返りの中には、「ソーランというずっと続いているこの伝統をどうしたら後輩が興味をもってくれるかを考え、作品を作ったので、これまでよりは1、2年生のソーランに対する意識を変えられたと思います。」「このプロジェクトを通して、大竹中の伝統を守ることの大切さだけでなく、仲間と協働し、1つの作品を創り上げることの素晴らしさを感じることができました。」とあった。</p> <p>地域の方からの感想を伝えられなかったのが反省点であるが、後輩からの振り返りを披露すると「本当に伝わった。」と自己有用感を感じている様子だった。</p>			



### 10 単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

資質・能力	目指す生徒像
課題発見・解決能力	自身の学校の現状を知ること、課題を見つけ、それを解決するために自分たちができることを考え、実行し、大竹中のよさを知ること、残りの中学校生活でできることを考え、行動に移すことができる。
主体性	課題解決に向けた行動を起こしたことで、自分や学校、社会のよさや可能性に気付き、次の課題・解決に向かうことができる。

### 11 本時の展開

<p>&lt;本時の目標&gt;</p> <p><b>“Otake Project” を成功させるために、“伝統” の情報を収集することができる。</b></p>	<p>&lt;ゴールイメージ&gt;</p> <p>大竹中学校の伝統について情報を収集し、後輩に伝えたい内容を整理することができる。</p>
---	--

	学 習 活 動	指導上の留意事項 ★配慮を要する個への支援	評価規準 (評価方法)
見通しをもつ	1 前時の活動について振り返る。	◇前時に聞いた先輩の話やリフレクションシートを確認させる。	
	2 本時のねらいを確認する。	◇生徒に本時は何をすべきかを考えさせながら、本時の目標を提示する。	
<b>“Otake Project” を成功させるために、“伝統” の情報を収集することができる。</b>			
自分の考えをもつ・考えを交流する	3 クラスで決定した伝統のテーマを再確認し、マインドマップを確認する。	◇前時に使用したマインドマップを再確認させ、思考ツールを活用し、先輩の思いをもとに考えられるようにする。	
	4 伝統テーマについて知りたいこと、聞きたいことをあらかじめプロジェクト実行委員が呼んだゲストティーチャーに話を聞く。 考えられる質問 取組が始まった経緯…	◇配布したワークシートにメモをするように促す。	
	5 ゲストティーチャーから入手した情報をマインドマップに付け足す。(グループ)	◇前時に使用したマインドマップに違う色で情報を付け足す。(ICT使用)	○伝統を後輩に伝えるために必要な情報を収集している。

	<p>6 グループのマインドマップを全体に共有し、後輩に伝えたい内容を整理する。</p> <p>7 どのように伝えたいかをクラスに投げかける。</p>	<p>◇各グループのマインドマップをテレビに映し、クラスで伝えたいことを整理する。 (ICT使用)</p>	<p>(マインドマップ)</p> <p>○後輩が「受け継ぎたい」と思えるように大切な情報を取捨選択し、解決に向けて考えている。 (生徒の発言)</p>
振り返る	<p>8 振り返りと自己評価 ・リフレクションシートに記入する。</p> <p>9 まとめ</p>	<p>○活動を通しての振り返りをリフレクションシートに記入させる。</p> <p>○全体の活動を通してのよかった点・改善点を全体で共有し、次時につなげる。</p>	<p>○後輩が「受け継ぎたい」と思えるように大切な情報を取捨選択し、解決に向けて考えている。 (リフレクションシート)</p>

<準備物>

テレビ, タブレット (1人1台), ワークシート



「本質的な問い」（カリキュラムを構成する質問の三つの階層）の考え方を参考に、「単元を貫く問い」を立てて、単元計画を構想する準備をしてみましょう。

校種・学年 3学年

教科等 総合的な学習の時間

単元（題材）名 “大竹中の伝統”を後輩に伝えよう！

### ① 本質的な問い （何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

大竹のまちに愛着をもち、大竹のまちを支える人になるためにはどうしたらよいだろうか。

### ② 単元を貫く問い （単元を通して考え深めていく「問い」）

大竹中学校の伝統を後輩に伝えるためにできることは何だろう。

### ③ 個別の問い （単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能等）

- ・ 本来、大竹中学校にはどのような“伝統”があったのだろう。
- ・ 卒業生はどのような思いで“伝統”を受け継いできたのだろう。
- ・ 後輩に“伝統”を伝えるためにどのように表現したらよいのだろう。

単元計画の  
構想を立てる

- ・ 先輩から大竹中の伝統に対する思いを聞く。
- ・ コロナをきっかけにどのように変化しているか、問題点を調べる。
- ・ 収集した情報を整理し、表現する。
- ・ 振り返る。